

ISSN 2433-7013

日本リハビリテーション教育学会誌

第7巻 第4号 2024年

NPO:Rehabilitation Academic center (RAC)

The Society of Japan Rehabilitation Education

日本リハビリテーション教育学会誌
第7巻 第4号

目 次

原 著

リハビリテーション専門職が外国人看護補助者と連携する時の留意点：質的調査から

佐野 智史・他 241 - 249

原著

リハビリテーション専門職が外国人看護補助者と 連携する時の留意点:質的調査から

Points to consider when rehabilitation professionals collaborate with foreign nursing aides:
From a qualitative study

佐野智史^{1), 2)} 堀本ゆかり²⁾

Tomofumi SANO, OTR, MS¹⁾, Yukari HORIMOTO, RPT, PhD²⁾

1) AOI 七沢リハビリテーション病院 リハビリテーション部: 神奈川県厚木市七沢 1304 (〒243-0121)

AOI Nanasawa Rehabilitation Hospital: 1304, Nanasawa, Atsugi City, Kanagawa, (〒243-0121) Japan.

E-mail: 23s1203@g.iuhw.ac.jp

2) 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 医療福祉教育・管理分野: 千葉県成田市公津の杜 4-3 (〒286-8686)

Education and Management in Health and Welfare Section, Health Science Program, Graduate School of International University of Health and Welfare:4-3, Kouzu-no-mori, Narita City, (〒286-8686) Japan.

日本リハビリテーション教育学会誌 2024;7(4):241-249. 受付日 2024年9月18日 受理日 2024年11月8日

要旨: [目的]外国人看護補助者とリハビリテーション専門職の連携について調査し, 外国人と日本人スタッフが職種間連携の工夫を目的とした. [対象と方法]当院に所属する外国人看護補助者 22 名に対し, 自記式アンケートを実施し, 得られた記述データを KH Coder を用いて分析した. [結果]看護補助者とリハビリテーション専門職との連携工夫は, 略語の英単語やカタカナを控え, リハビリテーション専門職による動作指導, 略語に関する研修は外国人看護補助者にとって, 有益なものになる. [結語]職種間連携の工夫として, 外国人スタッフにも伝わるよう正式名称及び動作指導, 患者の情報共有の頻度を多くすることが, 連携強化の一助となる.

キーワード: 外国人看護補助者, 職種間連携, 医療用語の略語

Japanese Journal of Rehabilitation education 2024;7(4):241-249. Submitted Sep. 18, 2024. Accepted Nov. 8, 2024.

ABSTRACT: [Purpose] The purpose of this study was to investigate the collaboration between foreign nursing aides and rehabilitation professionals, and to explore strategies to improve interprofessional collaboration between foreign and Japanese staff. [Subjects and Methods] A self-administered questionnaire was conducted with 22 foreign nursing aides at our hospital, and the descriptive data obtained were analyzed using KH Coder. [Results] Efforts to improve collaboration between nursing aides and rehabilitation professionals included minimizing the use of English abbreviations and katakana, providing movement guidance by rehabilitation professionals, and offering training on abbreviations, all of which proved beneficial for foreign nursing aides.[Conclusion] To strengthen interprofessional collaboration, it is helpful to increase

the frequency of sharing patient information, provide clear instructions on movements, and use official terminology that is understandable to foreign staff.

Key Words: foreign nursing aides, interprofessional collaboration, medical abbreviations

I. はじめに

労働力不足、医療人材不足、社会保障費の増大など2025年問題が間近に迫っている。厚生労働省¹⁾によると介護職員が必要数243万人に対して、約32万人不足している状況である。さらに、現役世代の人口の急減という新たな局面に対応した政策課題である2040年問題では、2023年時点で211万人、2040年には280万人が必要とされている。

1999年に閣議決定された「第9次雇用対策基本計画」²⁾において示されている我が国の外国人労働者受入れの基本的考え方は、専門的・技術的分野の外国人労働者については、我が国の経済社会の活性化や一層の国際化を図る観点から受入れをより積極的に推進することとする一方で、いわゆる単純労働者の受入れについては、国内の労働市場にかかわる問題を始めとして日本の経済社会と国民生活に多大な影響を及ぼすとともに、送出国や外国人労働者本人にとっての影響も極めて大きいと予想されることから、国民のコンセンサスを踏まえつつ、十分慎重に対応することが不可欠としている。少子・高齢化の進展による労働力不足への懸念では、社会保障の担い手として外国人を移民の形で長期に受け入れるべきであるとの議論もある。これら外国人労働者数の推移では、5年間で約40万人増加しており、医療福祉分野では1年で1万人増加している背景がある。

経済連携協定(Economic Partnership Agreement:以下EPAとする)に基づき、日本は2008年よりインドネシア、2009年からフィリピン、2014年からベトナム看護師候補者(以下、候補者とする)を受け入れている⁵⁾。EPAの目的は、締約国間での経済取引の円滑化、様々な経済領域での連携強化・協力の促進などである。また、候補者にとっては、日本での経験を通して医療や看護技術を精錬することに繋がり、日本も候補者から異国の看護を理解する機会が得られる可能性がある。

リハビリテーションとは、患者の社会復帰や生活の質の向上を目的に、多職種が連携して支援する包括的なケアを指す。医療従事者のみならず、患者やその家族も重要な役割を担い、リハビリテーション専門職はその調整と専門的支援として、チーム医療がある。

AOI七沢リハビリテーション病院(以下、当院とする)では、社会問題の背景を受け、全国に先駆けて外国人労働者を積極的に雇用し、チーム医療を実践しているが、言葉や文化の違いにより多職種理解が不足していることが課題となっている。チーム医療は医師や看護師、理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)、社会福祉士で構成されるだけでなく、病棟生活を支援する看護補助者、患者自身や家族も関わるケアである。当院における外国人労働者の割合が最も多いのは、日本で正看護師免許取得するために勤務している看護補助者が所属する部門である。

日本看護協会のガイドライン³⁾によると、看護補助者とは、「看護が提供される場において、看護チームの一員として看護師の指示のもと、看護の専門的判断を要しない看護補助業務(「傷病者若しくはじょく婦に対する療養上の世話」及び「診療の補助」に該当しない業務)を行う者」とされる。厚生労働省通知⁴⁾においては、看護補助者は「看護師長及び看護職員の指導の下に、原則として療養生活上の世話(食事、清潔、排泄、入浴、移動等)、病室内の環境整備やベッドメイキングの他、病棟内において、看護用品及び消耗品の整理整頓、看護職員が行う書類・伝票の整理及び作成の代行、診療録の準備等の業務を行うこととする」と明記されている。当院の看護補助者も入浴介助や患者への配膳・下膳補助、トイレや整容介助、レクリエーション企画を担当しており、我々療法士によるリハビリテーション以外の時間で大きく関わる職業として、なくてはならない存在である。

当院は他病院と異なり、外国人スタッフの雇用が多い。そのため、よりよいチーム医療を実践するには、個々の職業の役割や正しい認識教育及び適切な情報共有が必要不可欠である。

大谷⁹⁾の報告では、候補者にとって、患者や医療者との日本語によるコミュニケーションは困難であり、看護師の役割や仕事、患者や家族のあり方の文化的な差異も課題と述べられている。候補者として看護補助者という位置付けで勤務している外国人に対しての教育だけでなく、チーム医療やリハビリテーション専門職との連携の仕方に関する現場教育を充実させていく必要がある。

外国人看護補助者との多職種連携をより効果的に進めるためには、リハビリテーション専門職だけでなく、医師、看護師、看護補助者など、全ての医療従事者が互いの職種の役割や業務内容を理解することが重要である。これにより、患者へのケアの質が向上し、チーム医療における協力体制も強化される。先行研究を踏まえ、渉猟する限り、日常生活動作(以下、ADL)支援や移動介助など、リハビリテーションに関わる看護補助者とOT・PT・STの連携強化に関する研究は散見しない。

そこで本研究は、外国人看護補助者とリハビリテーション専門職の連携強化の工夫について調査し、リハビリテーション専門職が外国人看護補助者と協働する際、留意する点の理解へ繋げることを目的とする。

II. 対象と方法

1. 対象

当院に勤務する外国人看護補助者22名とした。本調査は無記名記入のため、回収箱への投函をもって同意とした。そのため、個人が特定されないこと、途中で棄権してもよいこと、途中棄権した場合の欠損データは分析対象としないこと、最後まで回答した場合は棄権することができないこと、参加しなくても不利益を被ることはないことなど丁寧に説明した。本研究は国際医療福祉大学倫理審査委員会(承認番号:23-Ig-59)、AOI七沢リハビリテーション病院倫理審査委員会(承認番号:23-001)より承認を得て実施した。

2. 方法

自記式質問紙を用いた横断的研究とした。本研究の質問紙は、専門家会議を行い、作業療法士、理学療法士、看護師などの意見を取り入れて作成された。まず、研究の趣旨と方法について紙面と口頭で説明を行った。外国人看護補助者が参加するため、不明な点について確認する時間を設けた。回収は病棟ごととし、アンケート用紙の配布と回収箱の設置を依頼した。回答は、任意な時間に回答箱への投函とした。調査期間は2023年7月21日から8月10日までとした。質問紙の内容を表1に示す。回答方法は、選択回答方式と自由記載とした。分析方法は、記述統計とした。自由記載はKH coder (Ver. 3.0)を用いて、テキストマイニング⁶⁾による頻出語のカウント、内容分析とした。

3. 本論文で使用する用語

1) 外国人看護補助者

先行研究では、外国人看護師候補者と記載されているものが多く、そのほとんどが国際厚生事業団¹³⁾の表記を参考にしている。EPAにより来日している外国人で、我が国における看護師国家試験の未受験者、もしくは不合格者としているが、本論文では、外国人看護補助者と記載する。

表1. 質問紙内容

質問内容	回答方法
1. あなたの年齢を教えてください	半角数字で入力
2. あなたの性別を教えてください	男性/女性/その他(回答したくない)
3. 看護補助者として勤務して何年目になりますか	半角数字で入力
4. 来日して何年経ちますか	半角数字で入力
5. 日本語検定は何級ですか	半角数字で入力
6. 看護補助者とのより良い連携のためにリハビリテーション専門職に何を求めますか	自由記載
7. 多くの職種がお互いに理解を深めるためにリハビリテーションをしている場面の見学や内容の研修などの機会があったら、参加してみたいと思いますか	ぜひ参加したい/時間など条件が合えば参加したい/どちらともいえない/あまり参加したくない/参加したくない
8. (あまり参加したくない・参加したくない)と答えた方はその理由を教えてください	理由記載
9. 日本の生活で困っていることは何ですか	自由記載

Ⅲ. 結果

対象者の基本属性を表2に示す。有効回答数は、22件であった。

表2 対象者の基本属性(n=22)

基本属性		回答
性別	男性 人 (%)	7 (31.8)
	女性 人 (%)	15 (68.2)
平均年齢 (歳)		33.5±11.1
21-29 人 (%)		8 (36.4)
30-39 人 (%)		14 (63.6)
40-49 人 (%)		0 (0.0)
50-59 人 (%)		0 (0.0)
平均経験年数 (年目)		2.3±2.0
平均在住年数 (年目)		2.8±1.4

表3では、看護補助者との連携でリハビリテーション専門職に求めることを聴取した。具体的な方法の記載があったスタッフのみ抜粋し、以下に記した。

表3. 具体的な方法

スタッフ名	A	B
年齢	30	34
性別	男性	男性
看護補助者勤務年数	8	1.5
来日してからの年数	8	1.5
具体的な連携方法	トイレ介助、ベッドから車椅子までの移動、食事介助など、患者様の状態に合わせて、適切な方法を教えていただきたいです。工作中にもトイレ介助、トランス、おむつ交換、病衣の着替えなどが1人で行うことができない時は積極的に手伝って欲しいです。ナースコールが多い時も看護師や看護補助者が出ることができない時、助けていただきたいです。	看護助手の多くは外国人であるため、理解しやすい言葉を使用することが望ましい。

スタッフ名	C	D
年齢	30	26
性別	女性	女性
看護補助者勤務年数	4	0.5
来日してからの年数	4	3.5
具体的な連携方法	ADLの変更があった時、教えてほしい。	患者の能力に関する情報を頻繁に交換することが良い。

外国人看護補助者がリハビリテーション場面の見学や研修の参加意欲について、結果を表4に示す。

表4. リハビリテーション部の見学・研修意欲調査

選択肢	人(%)
ぜひ参加したい	4(18.2)
時間など条件が合えば参加したい	14(63.6)
どちらでもない	2(9.1)
あまり参加したくない	2(9.1)
参加したくない	0(0.0)

あまり参加したくない・参加したくないという回答の理由では、「専門じゃないから」という自由記載があった。

日本での生活に困っていることについて、外国人看護補助者から回答を得た。有効回答数は10件で結果を表5に示す。日本語の読み書きの難しさが目立つ中、日本人とのやり取りの難しさも見られる。

表5. 日本での生活に困っている内容

品詞	頻出語	頻出数(件)
名詞	「日本語」	5
	「日本人」	5
	「プライバシー」	5
	「豚肉」	2
	「文化」	2
	「食べ物」	2
	「言葉」	2
	「友達」	2
動詞	「話せる」	2
	「住む」	2
	「困る」	2
形容詞	「難しい」	3
	「寂しい」	1

IV. 考 察

大谷ら⁹⁾は、日本の臨床現場において外国人看護師と協働するには、外国人看護師の母国の文化を理解することが重要であることが報告されている。表3より、具体的な連携方法を記載していた4名とも「わかりやすい言葉で頻繁に伝えあう」「困っていたら助けてほしい」といったワードが見られた。

現在も外国人看護補助者が雇用される中、OT・PT・STは略語の英単語やカタカナ(例:ADL, リハパン)は控え、特にOTやPTは、日常生活動作(ADL)や動作指導などの具体的な支援内容を分かりやすく伝える姿勢が重要である。小野¹¹⁾の報告からも、候補者はコミュニケーションの壁を感じているとされ、またSetyowati¹²⁾によると、候補者は、日本語能力、特に方言や医療用語に困難を感じており、日本語能力が日々向上しても、看護記録の読み書きは難しかったと報告されている。本研究の結果は、これらの報告と一致しており、医療用語の解説や日本語教育だけでなく、特にADL支援や移動介助といった現場に即した具体的な連携方法に関する研修も必要である。また、定期的なフォローアップを行うことで、学んだ内容の定着とさらなる理解の促進が期待される。環境・心理面では、外国人同士での交流の場や孤立を防止するための相談体制の整備が重要と考えられる。また、今までの候補者への研修については、平野ら⁸⁾によると、日本の医療や看護の現状を踏まえたものではなかったが、候補者は、日本人の人口構造を考慮し、日本の高齢者とのコミュニケーション方法や医療用語の略語についても必要があったと報告している。本研究の調査結果でも、外国人看護補助者がリハビリテーション場面の見学や研修を調査した結果(表4)では、「ぜひ参加したい」、「時間な

どの条件が合えば参加したい」と選択した人が全体の8割を占めていることから、多くの看護補助者がリハビリテーションを知り、連携強化の意識を高めたいと思う方がいる。したがって、医療用語の略語や具体的な支援内容(ADL支援、動作指導など)に関するOT・PT・ST職種内容研修の必要性は高いと言える。

本研究の限界は、一つ目は、調査対象が特定の医療施設に限定されているため、他の地域や施設における外国人看護補助者とリハビリテーション専門職との連携の状況を一般化することは困難である。二つ目は、調査対象者数が比較的少数であり、サンプルサイズの制約により、結果の解釈に偏りが生じる可能性がある。三つ目は、データ収集には自己申告のアンケートを使用したため、回答者が実際の経験や意見を正確に反映していない可能性がある。特に、外国人看護補助者が言語や文化の違いから回答に躊躇したり、意思疎通の困難さが回答に影響を与えた可能性があるため、今回は、インタビュー調査を実施したい。四つ目は、本研究では外国人看護補助者とリハビリテーション専門職の連携に焦点を当てているが、他の医療職や職場環境の影響について十分に考慮できていない点も限界として挙げられる。今後は、より広範な職種や施設を対象とした研究が必要である。

利益相反と研究助成費

投稿に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業、組織及び団体はない。

引用文献

- 1) 厚生労働省:第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について.
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02977.html (閲覧日:2023年5月1日)
- 2) 厚生労働省:第2章 外国人労働者受入れ制度の見直しの必要性.
<https://www.mhlw.go.jp/topics/2002/07/dl/tp0711-1n2.Pdf> (閲覧日:2023年5月2日)
- 3) 公益社団法人看護協会:日本看護協会ガイドライン.
<https://www.nurse.or.jp/nursing/learning/index.html> (閲覧日:2023年4月29日)
- 4) 公益財団法人看護協会:2021年度改訂版看護チームにおける看護師・准看護師及び看護補助者の業務のあり方に関するガイドライン及び活用ガイド.
https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/guideline/way_of_nursing_service.pdf.
(閲覧日:2023年5月4日)
- 5) 守本とも子, 田中和奈:EPA(経済連携協定)の現状. これからの国際看護学 国境を越えた看護実践のために. ピラールプレス, 2014, 東京, 第1版.
- 6) 樋口耕一:社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して. 京都, ナカニシヤ出版, 2014, p22.
- 7) 厚生労働省:インドネシア, フィリピン及びベトナムからの外国人看護師・介護福祉士候補者の受入れについて.
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/gaikokujin/other22/index.html (2023年6月2日閲覧)
- 8) 平野裕子, 米野みちよ:外国人看護師EPAに基づく受入れは何をもたらしたのか. 東京大学出版会, 2021.
- 9) 大谷則子:わが国における外国人看護師の看護実践の現状と課題に関する文献検討. 和洋女子大学紀要.

2018, 第59集, p69-79.

- 10) 杉本知子, 相馬由紀子, 上野佳代, 他: 医療・介護施設における外国人労働者の定着に向けた取り組み実態. 千葉県立保健医療大学紀要. 2020, 11(1), p80.
- 11) 小野聡子, 伊東美佐江, 山本八千代: 経済連携協定 (EPA) 推進に伴う受入れ初期の外国人看護師候補者が抱く日本の看護実践現場での認識. *インターナショナル Nursing Care Research*. 2020, 19, 4, p21-30.
- 12) Setyowati, Shun Ohno, Yuko O Hirano et al. : Indonesian Nurses' Challenges for Passing the National Board Examination for Registered Nurse in Japanese: Suggestions for Solutions. *Southeast Asian Studies*. 2012, 49, p629-642.
- 13) 国際厚生事業団: 2023年度受け入れ版 EPAに基づく外国人看護師・介護福祉士候補者受入れパンフレット. <https://jicwels.or.jp/wp-content/uploads/2022/03/2023年度版受入れパンフレット.pdf>
(2023年10月1日閲覧)

編集長	山田 洋一 (理学療法士)
編集委員	高島 恵 (理学療法士)
	神山 真美 (作業療法士)
	鈴木 真生 (言語聴覚士)
	寺田 佳孝 (教育学)
	鈴木 啓介 (理学療法士)
	植田 恵 (言語聴覚士)

日本リハビリテーション教育学会誌

第7巻 第4号 2024年

2024年11月15日発行

編集：NPO 法人リハビリテーション学術センター
日本リハビリテーション教育学会

〒173-0004

東京都板橋区板橋 1-11-7-901

日本リハビリテーション教育学会 事務局

URL

<http://rehaac.org/professional.html>
